

お知らせ

INFORMATION

No.2020-30

2020 年 12 月

病体生理研究所

検査新規受託・受付中止について

(ALP、LD、ALP アイソザイム、LD アイソザイム検査内容変更について)

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

予てより、ALPおよびLDについて日本臨床化学会から、2020年4月より準備の整った施設から現在のJSCC法（JSCC:臨床化学会）をIFCC法（IFCC:国際臨床化学連合）へ変更開始し、2021年3月末までに達成を目指す方針が発表されております。当研究所におきましても2021年3月29日よりALPおよびLDについて、JSCC法からIFCC法へ変更致します。これに伴い従来の検査項目コードを受付中止とし、新規検査コードにて受託開始とさせていただきます。

また、ALPアイソザイムにつきましては、現在採用している検査項目(名称)に変更させていただきます。

何卒、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

【新規受託項目】

- ◆ ALP(IFCC) [30009]
- ◆ LD(IFCC) [30008]
- ◆ ALP アイソザイム及び骨型 ALP(BAP) [32361]
- ◆ LD アイソザイム [32391]

《受託開始日》: 2021 年 3 月 29 日 (月) 受付分より

※ 詳細は次頁以降をご参照下さい。

【受付中止となる項目】

- ◆ ALP(JSCC) [10009] … 検査案内 P2
- ◆ LD(JSCC) [10008] … 検査案内 P2
- ◆ ALP アイソザイム [32061] … 検査案内 P2
- ◆ LD アイソザイム [32091] … 検査案内 P2

《最終受付日》2021 年 3 月 27 日 (土) 受付分まで

※ ALP(JSCC) [10009] のJSCC法は受付中止となり、コード [10009] はALPのJSCC法換算値コードに変更致します。

一般財団法人東京保健会 病体生理研究所

〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町26-2 電話 03-3956-4101 (代表)

【新規受託・中止に関する留意事項について】

1. ALPのJSCC法換算値について

- ◆新規受託のALP(IFCC)〔30009〕と同時に従来コードALP〔10009〕のご依頼を頂いた場合、従来(JSCC)法のALP〔10009〕にJSCC法換算値を入れてご報告致します。

なお、オンライン依頼で従来コードのALP〔10009〕のみのご依頼の場合、ALP(IFCC)〔30009〕を自動的に付加させていただきます。

※血液型がB・O型の検体の比率によって、回帰式の傾きと乖離の程度が異なるため、実測値に合致する換算係数を得ることは困難ですが、ほぼ肝型と骨型の検体と仮定した場合の換算係数は以下となります。

＜IFCC法測定値からJSCC法測定値に換算：2.84倍＞

ただし、小腸型ALPや胎盤型ALPが増加する症例では、換算値は実測値から乖離しますので、ご注意ください。

2. 検査セットに含まれるALPについて

- ◆病体統一セット、61健診セットに含まれるALPは、すべて新規受託のIFCC法とJSCC法換算値の両方を2022年3月31日まで併せてセットさせていただきます。

3. 従来コードALP〔10009〕について

- ◆使用期限を2022年3月31日までとします。期限をもって上記1および2の処理を解除させていただきます。

4. 依頼書のご記入について

- ◆ALPおよびLDについて、「JSCC法」または「検査コード」の明記が無い場合は、IFCC法にて受付させていただきます。

5. 検査報告書について

- ◆新規受託のIFCC法の結果値は、総合報告書・生化学シール報告書の現在空いている箇所にて報告いたします。

JSCC法換算値である従来コードのALP〔10009〕は既存の位置での報告となります。

※ 次ページを参照下さい。

※ 台紙につきましても変更致します。

《ALP および LD の IFCC 法の報告書表示位置》

生化学シール報告書

		生 化 学	
生 報 化 学 告 告 検 査 書	採 取 日	年 月	
	受 付 日	年 月	
	検 体 種 類		
	検 査 日	年 月	
	発 行 日	年 月	
	科 名		
	カルテ No.		
検 査 項 目	基 準 値 単 位	氏 名	
総 蛋 白 (T P)	6.7~8.3g/dL		
ア ル ブ ミ ン	3.8~5.2g/dL		
A / G 比	1.20~2.00		
LD(IFCC)			
ALP(IFCC)			
AST (G O T)	10~40U/L		
ALT (G P T)	5~42U/L		
LD (L D H)	120~240U/L	空欄になります	
ALP (アルカリ)	110~350U/L		換算値
L A P	30~70U/L		
γ - G T P	M:10~80 F:10~40U/L		
コリンエステラーゼ	M:240~490 F:200~460U/L		
CK (C P K)	M:40~200 F:40~165U/L		

総合報告書

総合報告

施設名

内科

採取日2020年11月30日 受付日20

1

問い合わせNo.
患 者 I D
採 取 日
受 付 日
氏 名

性別・年齢

生 化 学 関 連 検 査

検 査 項 目 基 準 値 / 単 位

総 蛋 白 (T P)

ア ル ブ ミ ン (A L B)

A / G 比

蛋 白 分 画 (P F)

A L B

α 1 - G

α 2 - G

β 1 - G

β 2 - G

γ - G

A / G 比

LD(IFCC)

ALP(IFCC)

AST (G O T)

ALT (G P T)

~~LD (L D H)~~ 空欄になります

A L P 換算値

L A P

γ - G T (γ - G T P)

【ALP】

変更内容	新	従来
項目名称 検査実施施設	ALP (IFCC) B	ALP B
コード	30009	10009
検査方法	IFCC 標準化対応法	JSCC 標準化対応法
基準値 (単位)	38～113 (U/L)	110～350 (U/L)
必要量	血清 1.0 mL 検査案内の☆項目の必要量は 項目数に関わらず血清1.0mL	同左
保存方法 (安定性)	冷蔵 (1ヶ月)	同左
所要日数	1～3 日	同左

【LD】

変更内容	新	従来
項目名称 検査実施施設	LD (IFCC) B	LD B
コード	30008	10008
検査方法	IFCC 標準化対応法	JSCC 標準化対応法
基準値 (単位)	124～222 (U/L)	120～240 (U/L)
必要量	血清 1.0 mL 検査案内の☆項目の必要量は 項目数に関わらず血清1.0mL	同左
保存方法 (安定性)	冷蔵 (14 日)	同左
所要日数	1～3 日	同左

【ALP アイソザイム】

肝型 ALP (ALP2)、骨型 ALP (ALP3) の分画を明確に分ける酵素 (ノイラミニダーゼ) を用いた ALP アイソザイム (骨型 ALP 含む) IFCC 試薬にて検査を行っております。この機会に項目名称および検査実施料の変更をさせていただきます。

変更内容	新	従来
項目名称 検査実施施設	ALP アイソザイム及び 骨型アルカリフォスファターゼ (BAP) B	ALP アイソザイム B
コード	32361	32061
検査方法	アガロースゲル 電気泳動法	同左
基準値 (%) ※	ALP 1 0.0～5.3 ALP 2 29.3～67.9 ALP 3 26.9～67.6 ALP 5 0.0～18.1	ALP 1 — ALP 2 35.8～74.0 ALP 3 25.1～59.0 ALP 5 0.0～16.1
必要量	血清 1.0mL	同左
保存方法	冷蔵	同左
所要日数	3～4日	同左
検査実施料	96点 (D007 24)	48点 (D007 14)
備考	「ALP アイソザイム及び骨型アルカリフォスファターゼ (BAP)」は、「骨型アルカリフォスファターゼ (BAP) と併せて実施した場合はいずれか主たるもののみ算定する	

※ ALP アイソザイム及び骨型アルカリフォスファターゼ (BAP) [32361]の総活性値は、ALP(IFCC)[30009]の基準値に準拠します。

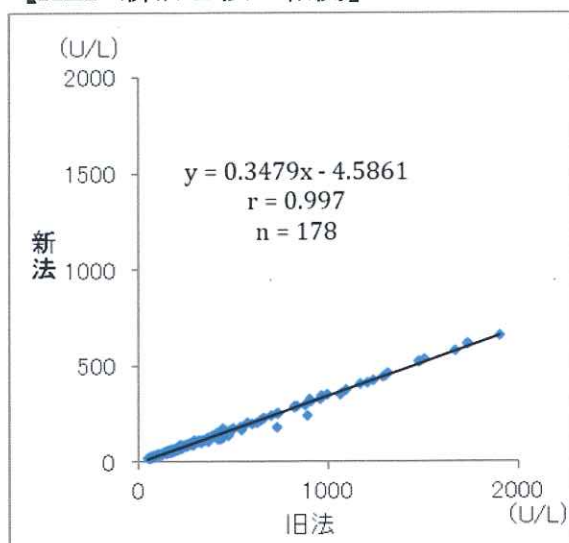
【LD アイソザイム】

変更内容	新	従来
項目名称 検査実施施設	LD アイソザイム B	同左
コード	32391	32091
検査方法	アガロースゲル 電気泳動法	同左

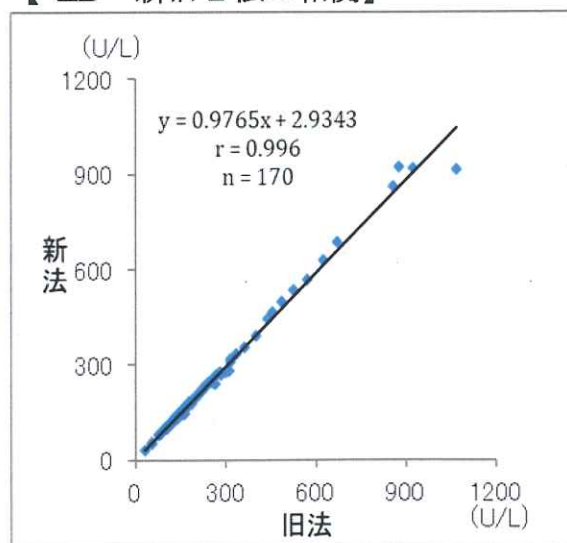
※ LD アイソザイム[32391]に関しては、基準値の変更はありませんが、総活性値はLD(IFCC) [30008]の基準値に準拠します。

LD・ALP・ALPアイソザイム 相関

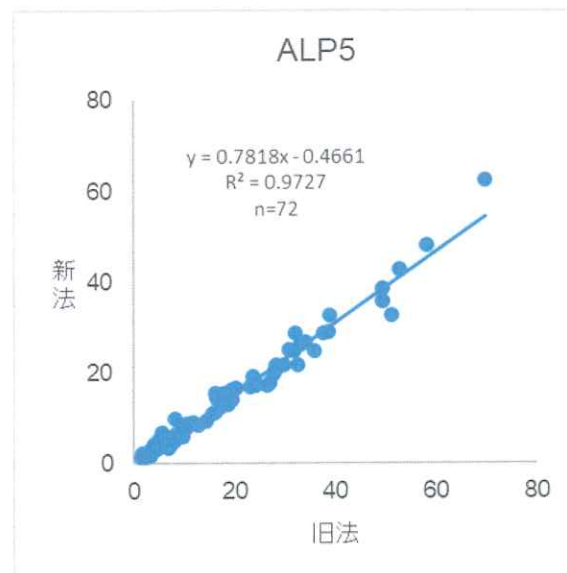
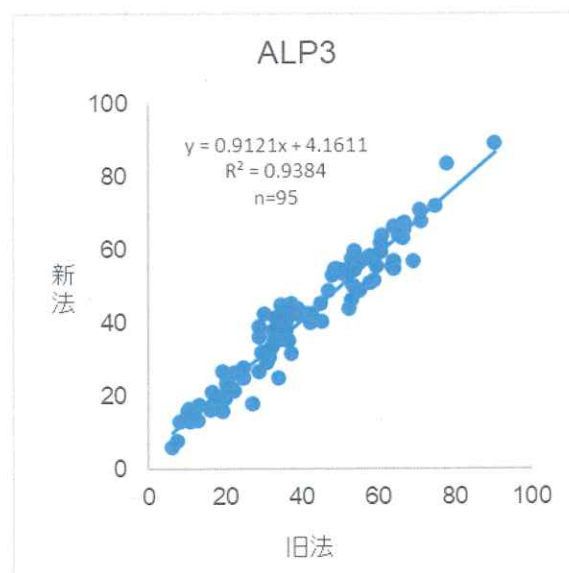
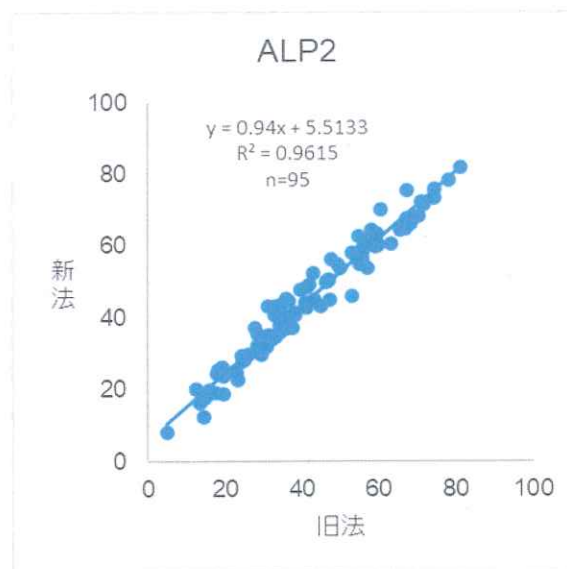
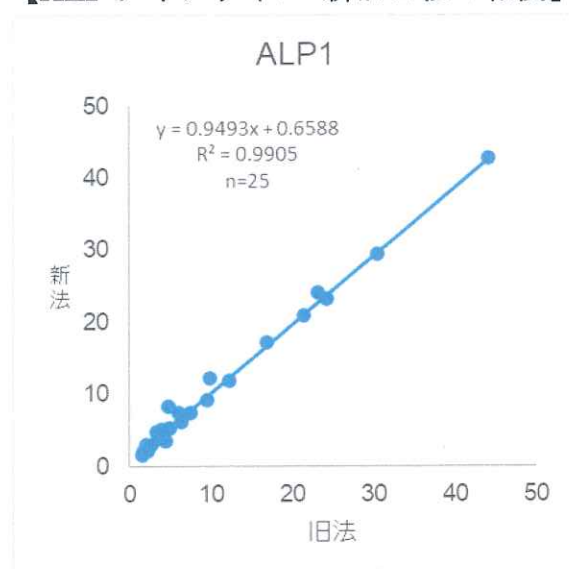
【ALP 新旧 2 法の相関】



【LD 新旧 2 法の相関】



【ALP アイソザイム 新旧 2 法の相関】



IFCC 法への測定値変更に伴う留意事項

日本臨床化学会のホームページでは「ALP、LD の測定法の変更に関するご案内」がインフォメーションされております。その中に記載されている情報を参考として以下にご案内いたします。

【ALP】

〔変更に関する注意点〕

- ◆測定値が現行の 1/3 程度の数値 になります。
- ◆測定前後の値の換算には限界があります。IFCC 法に変更することで血液型 B,O 型では小腸型 ALP を含む検体で低めになり、逆に妊婦では胎盤型 ALP が増加することにより高めに測定されます。
- ◆ALP アイソザイム試薬についても IFCC 法に対応した新しい処方のもので発売されますので、その IFCC 法に対応した試薬での測定が必要です。

〔主な領域および疾患での変更後の値について〕

① 健康診断

血液型 B,O 型の一部で頻発する傾向にあった疾患と関連しない上昇の多くが解消され、肝および骨疾患の臨床的意義が向上します。

② 肝疾患

JSCC 法ではノイズ的要素が高かった B,O 型の一部に出現する小腸型 ALP を低く抑えることから、肝疾患への特性が増し、生理的変動も縮小します。

③ 骨疾患

ALP は乳児期および小児期の低ホスファターゼ症 (Hypophosphatasia; HPP) の診断に欠かせませんが、海外と同一の測定方法となることから、世界的に情報共有が可能となり、治療ガイドラインの有用性が向上します。

癌の骨転移や慢性腎疾患などの骨代謝異常の指標の一つとして海外も含めた利用価値が向上します。

④ 妊婦

従来の JSCC 法に比較して IFCC 法では胎盤型の反応性が高くなります。妊娠週数が増すと胎盤型が増加し、肝型との比率も変化することから JSCC 法と IFCC 法の相関は一律にはいかず乖離します。

【LD】

〔変更に関する注意点〕

- ◆LD5 優位検体では現行の JSCC 法に対して低めの活性になります（LD5 が 50% の症例では測定値の差は 20%未満）。

〔主な領域および疾患での変更後の値について〕

LD5 が少ない場合は、JSCC 法と IFCC 法でほぼ違いはありませんが、LD5 が増加するに従い、IFCC 法で低めになることにご留意ください。

① 心疾患

心筋に多く含まれる LD1 および LD2 が優位であり、変更後は若干高値傾向になります。

② 血液疾患

白血病では、LD2 および LD3 が優位とされています。そのため変更後の測定値の変動は許容誤差範囲内です。

③ 肝疾患

肝疾患では、LD5 が優位となるため、変更後の測定値は 10～20%低値傾向になります。

一般社団法人 日本臨床化学会 「ALP、LD の測定方法の変更に関するご案内」
(2020 年 2 月 13 日)
URL : <http://jscc-jp.gr.jp/>